

◎特別支援学校（肢体不自由）

肢体不自由のある生徒の学習への意欲を高める I C T 等機器の活用
～清掃活動を中心とした生活単元学習の実践～

1 教科等名及び学部・学年

- (1) 教科等名 生活単元学習
(2) 学部・学年 小学部 6 年

<写真 1>



2 単元のねらい及び計画

- (1) 単元名「おそうじ戦隊セイソウジャー」<写真 1>

(2) 単元のねらい

- ・掃除用具の使い方や掃除方法を身につける。
- ・掃除をとおして周りの人から感謝される喜びを感じる。



(3) 単元計画

次 (配時)	主な学習活動	活用する I C T 等支援機器 (アプリ名) 等
一 (7)	・机の水拭き（雑巾）・掃除機での教室掃除 ・モップでの廊下掃除・動画での振り返り	iPod、AppleTV、TV (カメラ、写真)
二 (21)	・役割分担の話し合い ・机の水拭き（雑巾）・掃除機での教室掃除 ・モップでの廊下掃除・動画での振り返り	iPod、AppleTV、TV 無線チャイム (カメラ、写真、Keynote)
三 (7)	・役割分担の話し合い ・机の水拭き（雑巾）・掃除機での教室掃除 ・モップでの廊下掃除・動画での振り返り ・次回掃除場所の相談	iPod、AppleTV、TV 無線チャイム (カメラ、写真、Keynote)

3 授業での活用実践

(1) 活用のねらい

- ・「ひっさつ技ムービー」をとおして、掃除方法の理解や意欲向上を図る。
- ・掃除活動の様子を即時的及び視覚的に見て振り返ることで、効果的にフィードバックできるようにする。

(2) 児童生徒の実態

- ・小学部（領域・教科を合わせた指導を主とする教育課程）6 年 3 名（男子 2 名、女子 1 名）
- ・3 名とも車椅子使用。上肢の動きに制限はあるものの、何事にも意欲的で適切な支援や教材・教具の工夫により、主体的に学習活動に参加できる。
- ・全員ひらがなを読むことができ、簡単な言語指示はほぼ理解し、日常的会話が
できる児童が 2 名、もう 1 名は主に身振りや簡単な手話等でやりとりができる。
- ・高学年になり、自分の行動が周りの人から感謝される喜びを少しずつ感じる
ことができるようになっている。
- ・戦隊モノやアニメがとても好きで、セリフやしぐさの真似をして遊んでいる。

(3) ICT等支援機器の活用方法・工夫点

- ・児童が好きな戦隊モノにちなんで「おそうじ戦隊セイソウジャー」と命名し、意欲的に掃除ができるようにした。
- ・児童が楽しみながら意欲的に取り組み、かつ効果的に掃除方法も確認できるよう、アプリ「Keynote」を使用して掃除用具の使い方や掃除方法を映像化してわかりやすくした「ひっさつ技ムービー」を作成した。
- ・児童の関心がより高くなるよう「ひっさつ技ムービー」内の写真や動画は児童自身が活動しているものにした。＜写真2＞＜写真3＞

＜写真2＞ひっさつ技1



＜写真3＞ひっさつ技2



- ・振り返り活動では、児童の活動の様子を教師が iPod で動画を撮り、その動画をTVに映しだして、全員でそれを見ながら振り返りをするようにした。

(4) 活用の効果及び課題

- ・「ひっさつ技ムービー」をとおして、児童はとても楽しい雰囲気です掃除方法を確認し、意欲的に掃除活動に取り組むことができた。掃除中には、自ら「ひっさつ技」の動きをしたり、セイソウジャーになりきるような様子が見られた。
- ・動画をとおして自分や友達の掃除の姿を確認でき、改善したらよい点や頑張っている点を共有したり、次回への意欲につなげたりすることができた。
- ・「ひっさつ技ムービー」に、児童は出演しているものの、作成に関する児童の活動は少なく、教師によるお膳立てという側面が強かった。

4 改善点

(1) 改善したこと

- ・児童が考えた新しい掃除方法「ひっさつ技」のスライドを児童と一緒に作成した。
- ・振り返り活動では、事前に教師が児童のできたことやできなかったこと等を確認し、対象となる動画の箇所で一時停止して、発言や意見をする場を設けた。

(2) 改善後の効果

- ・追加したスライドだけでなく、「ひっさつ技ムービー」全体への興味がこれまでよりも一層高くなった。また、友達や教師に「ぼくがつくったんだ！」と言葉や身振りでアピールする様子が見られた。
- ・自分が考えた掃除方法「ひっさつ技」を多用する様子も見られ、効果的な定着へとつながったのではないかと考える。
- ・振り返り活動の際、動画を一時停止することで、児童からの発言や意見を引き出すことができた。特に、動画に夢中になり過ぎてしまう児童については、「ここがんばったよ！」など振り返りに関する発言が増えた。